



垂水の千本いちろう



熊本地震復興応援
かごしま
お得旅☆☆



国と県が観光の復興を後押ししてくれました。

鹿児島県はおもしろい
鹿児島県はたのしい
鹿児島県はおいしい
鹿児島県はあたたかい
そして
鹿児島県は不思議のくに

ひつとぶ

第3号

明治維新一五〇周年記念文化力

向上提案事業”に採用されました。

二年後明治維新一五〇年を迎えるにあたって顕彰する表記の助成事業に応募して、私共の提案した、西郷さんの街歩き、西郷さんの足跡たずねるツアー。もごご知りたい世界文化遺産ツアーの事業が採用され、実施中です。

“NHK大河ドラマ 西郷どん”

再来年の大河ドラマ「西郷どん」に決まりましたね。うすうすの情報で、先行して、西郷ツアーや街歩きを企画して、「ドンドンシヤ！」でした。これから西郷さんにまつわる色々な仕掛けをしていきます。



西郷どんの色々な肖像画

発行者
NPO法人
かごしま新発見伝塾
〒891-1231
鹿児島市小山田町 6980
Tel 099-238-7282
Mail info@kagoshima-shinhakken.net
<http://www.kagoshima-shinhakken.net>

ご挨拶

平成二八年も残すところあとなわすかとなつて参りました。皆様方にはこの一年をこのようにお過ごしになられましたでしょうか。

四月十四日夜、突如「緊急地震速報です」という声 flowed と同時に、家が揺れ出し、今度は鹿児島にきた！と思わせるくらい大きな地震でした。

三日後の十七日は 戦国島津氏 島津義弘を巡る旅第一弾」と題したツアーを予定しておりましたので、急いで各道路状況を調べ、施設等にも被害がない事を確認できましたので、ツアーの実施に踏み切りました。困難な状況が発生した時、冷静さを保ち、的確な判断をすることはとても大切なことで、お客様の信頼にもつながるとおもっています。

地震後の観光客激減に苦しめられた九州でしたが、元の状態に戻すことは容易ではありません。私共は常に明るい光をお届け出来ますよう、未来を信じて歩んで参ります。今後とも尚一層のご支援を賜ります様よろしくお願ひ申し上げます。

平成一九年が平穏で佳き年でありますように

特定非営利活動法人かごしま新発見伝塾

理事長 今井俊子

世界文化遺産バスツアー

寄稿 寺山炭焼き窯を訪ねて

かごしまひびき観光ガイド酒匂靖男

平成二八年一月六日 「やしの実バスツアー」NPO法人かごしま新発見伝塾主催の旅で、「寺山炭焼き窯跡」白炭を焼いていたと言われる窯等を訪ねた。窯跡地にバスから降りると山への入り口に「マテバシイ」の木に名札が下がっていた。「マテバシイ」のひよろ長い実が落ちていた。幹は太く真っ直ぐに力強く伸びていた。山の尾根辺りに位置する、水はけが良くて、乾燥するそんなところにも育つ樹木です。良い「白炭」木材になっただろう。坂を下って行くと「ツブラジイ」「アラカシ」「スタジイ」「クヌギ」「コナラ」等が周辺に生育している状況でした。窯の近くには小川が流れていた。これなら「白炭」を作るために、窯で一二〇〇度の高温で燃やし、真っ赤になった「炭」を窯口から取り出して、小川の水を使い、灰や土を混ぜて練り「膏粉」として、素早く炭にかぶせ冷やすと立派な「白炭」「硬炭(カタズミ)」が出来ただろうと想像できた。

二八代島津斉彬公の言いつけで、山本藤助が紀伊和歌山の「ウバメガシ」を材料にした「備長炭」の作り方を取り入れて、吉野に3基の炭窯を作ったとのこと。その情報の導入にも感心させられました。特に窯の入り口の大きい事、高さ2m近くもある。日置市東市来町「美山」の「南京窯」は調所広郷指導



の下に、一八四〇年頃造られた窯で、大型の「花瓶」が焼かれていた。一八六七年パリ万国博覧会に「薩摩・日本代表」として出品されたそれらの「花瓶」は日本文化・芸術の素晴らしさにヨーロッパの人々が感嘆した。という史実がありますが、現在美山にある入り口の低い、小さな窯では到底花瓶は焼けない。万国博覧会に出品した頃の窯は現在の窯より格段に大きく、高い入り口であったと思われる。「美山」の「南京窯」は吉野の「炭焼き窯」作りに大いに役立った事だろうと思われる。「美山」の「南京窯」では反射炉の耐火煉瓦が焼かれたと言われている。これらの関係を調べると、薩摩の総力を集結して近代化が進められたことを身近に感じます。一月末、南九州特有の森に行くと「ツブラジイ」「マテバシイ」「アラカシ」「クヌギ」「コナラ」の実が落ちています。たまには「イチイガシ」「アカガシ」少し高地へ行くと「ミズナラ」や「カシワ」の実にも逢います。いろいろの「ドンクワ」を拾い、形や大きさの違いを見つけて楽しみましょう。

アレppoの石鹼

皆様はアレppoの街をご存知ですか？

シリアの北部に位置し、トルコの国境に近い人口三五六万人(二〇一五年推定)の街です。古くから交易の拠点として栄えましたが、近年の民主化運動「アラブの春」に巻き込まれ、アサド政権と反体制派、それにイスラム過激派などが戦闘を繰り返しています。この戦闘の犠牲となった市民は四〇万人以上とも言われ、子供達にも食糧が行き渡っていません。米国とロシアが主導した停戦合意も破られ、路上には生々しい血痕も見られるそうです。

そんなアレppoの街に一つの光が輝いています。アレppoの石鹼です。

今から一〇〇〇年も昔、地中海地方原産のオリーブオイルとローレルオイルを元にアルカリと水だけで、添加物は一切使わず、伝統的釜焚き製法を守りながら作られてきました。戦いがいつ果てるとも知れないアレppoの街で人々は命の危険に晒されながらも、先人達の築いた歴史と文化の灯を絶やさず、未来の子供達に伝えようと必死に頑張る人々に少しでも力を貸して欲しいと思います。私たちが石鹼一個購入することに、工場で働く人々が不条理には屈しないという勇気と気概を持てるようになることを確信します。

アレppoの石鹼は「コープかごしま」の各店舗にあります。

シリーズ「かごしまの女性」 其の三

幕末の薩摩と京都を結ぶ橋渡し役

～貞姫～

貞姫は、弘化二年（1845）五月、加治木島津家の長女として薩摩に誕生し、島津斉彬の養女として、文久三年（1863）十二月、京都の近衛忠房に嫁ぎました。当時、政治運動の中心は京都へと移っていました。朝廷工作には橋渡し役が必要でした。島津家では、初代忠久より近衛家との由緒を持ち、江戸中期からは婚姻関係も重ねていたために、朝廷への窓口を近衛家に求めていました。貞姫の婚姻も、両家の関係の延長線上のものでしたが、激動の時代故に、貞姫にしか果たせない役割も担う事になりました。

この縁談は、斉彬によってもたらされましたが、斉彬の急逝により立ち消えになっていました。しかし島津久光の中央政治への進出により、再び持ち上がる事になります。貞姫の実家では、お断りしたいと思っていたのですが、小松帯刀より御国家（薩摩藩）のために諦めて欲しいと説得されています。以後小松は、この縁談に深く関わる事となります。天誅の嵐が吹き荒れ、しきたりも違う京都へ上り、公家の筆頭近衛家に嫁ぐ事は、大変な覚悟が必要だったと思

われます。

文久二年八月、本家の養女として鹿児島城にはいった貞姫ですが、翌年春とされた入輿は、薩英戦争の影響で延引されます。薩英戦争時には、貞姫は大奥の女性達と共に、花尾神社に逃げており、女性達の結束も深まったことと推察されます。

文久三年十一月、貞姫はいよいよ京都への入輿の旅に出ます。その折のお供の筆頭は、千代せこと税所敦子でした。貞姫の「道乃記」税所敦子の「松のさかえ」という旅日記により、この旅の詳細は知ることが出来ます。税所敦子は、近衛家の裏方の老女として、勤王家として有名な表方の老女村岡と共に、近衛家を取りまとめていくこととなります。また、明治に入ってから、明治宮廷の女官として大きな功績を残しました。

十二月十八日、貞姫は近衛家へ嫁いで行きました。尽力をした小松帯刀は、その褒美として近衛家より、近衛家の家紋「蒼牡丹」の使用を許されています。さらに小松は、後に薩長同盟の舞台となった御花畑屋敷も近衛家より借り受けています。

翌年の禁門の変では、近衛家の表方は道具を片付けてあたふたしていました。貞姫のいるお裏方では去年も之有り（薩英戦争のことか）、あまりうろたえては世評も悪いと無頓着なまで

でありました。うろたえる公家達の中で、貞姫は「御すわり、かんしん」と、毅然とした態度をとっていたという相良藤次の手紙が残っています。

また、小松、大久保の両人は文久二年以来、取り次ぎもなしに近衛邸内に入り込んでいると、大久保の日記には書かれており、近衛家との密接な関係が伺われます。これもまた近衛家のお裏方としての貞姫の存在あつての事と思われま

す。

篤姫と良く似た境遇であった貞姫は、幕末の薩摩と京都を繋ぐ橋渡し役の要として、立派にその役割を果たしたといえるでしょう。激動の時代をしなやかに生き抜いた貞姫は、大正九年（1920）一月、東京の近衛邸で七六年の生涯を終えています。

寄稿 会員 島津登志子

参考文献・史料 『玉里島津家史料』『鹿児島城右筆日記』『新納時成、時房日記』 他多数



近衛家本邸
南日本新聞より

これまでの活動実績

前年12月、2号以降の活動の主なものを挙げてみました。会員の皆様をはじめご参加頂きました方々に感謝です。

街歩き(街歩きに関する事業)

平成28年03月 23日	第 25 回金生町・中町界限と五代友厚に会いに行く
平成28年04月 2回	第 26 回ジオと歴史の石橋公園、歴史と東郷平八郎の多賀山
平成28年05月 26日	第 27 回清水城・内城と上町の魅力
平成28年07月 31日	第 28 回親子でたどる明治維新 150 年の歴史・西郷さんてどんな人?
平成28年09月 2回	第 30 回西郷隆盛「座右の銘は敬天愛人」加治屋町
平成28年10月 13日	第 31 回老舗百貨店の文化と歴史巡り 金生町
平成28年10月 2回	第 33 回西郷隆盛「おいどんの命はおはん達にあげもそ」城山
平成28年11月 2回	第 34 回西郷隆盛「国会の開設は急務でござす」南洲顕彰館・南洲墓地

知るを楽しむバスツアー(観光資源の発掘に関する事業)

平成28年03月26日	春風にのって、南薩の旅 穎娃・枕崎
平成28年04月17日	義弘を旅する 南薩編
平成28年06月30日	まるごと志布志・夏越しの祭りとおそばと鱧
平成28年07月16日	霧島夏物語/龍馬・おりょうも行った霧島の森
平成28年07月17日	串木野さのさ祭り～観たり・踊ったり～
平成28年07月23日	大人の楽しい一日遠足・南薩の旅
平成28年09月25日	義弘を旅する えびの・栗野・大口編
平成28年10月23日	もっと知りたい! 西郷さんの足跡
平成28年11月06日	もっと知りたい! 世界文化遺産
平成28年11月26日	出水、日本一厳しい関所と甘〜いみかん狩り
平成28年12月04日	千本いちょうと夕映えのデザートハウス



親子の街歩き西郷さん誕生地

原口泉教授の野外歴史教室(観光に携わる人材育成に関する事業)

平成29年01月09日 チョッシモタ! 西郷さあの足跡を訪ねて根占へ(9/4 台風の為、期日変更)

グランドマスター・フィールドワーク(観光アドバイザーに関する事業)

平成28年3月12日 「院」から入る日置の歴史
平成28年9月10日 明治維新 150 年記念「野間之関・時代をつむぐ証言者たち

やっと3号発行です。一年に2回は発行するのがノルマでしたが、今回も達成できませんでした。しかしながら今回お一人に寄稿をお願い致しましたら、素晴らしいものになりました。私の構成がもう一工夫ですね。勉強します。

編集責任者 今井征男

編集後記



義弘を旅する南薩編・日置天昌寺跡

